

2019年度実施プロジェクト概要

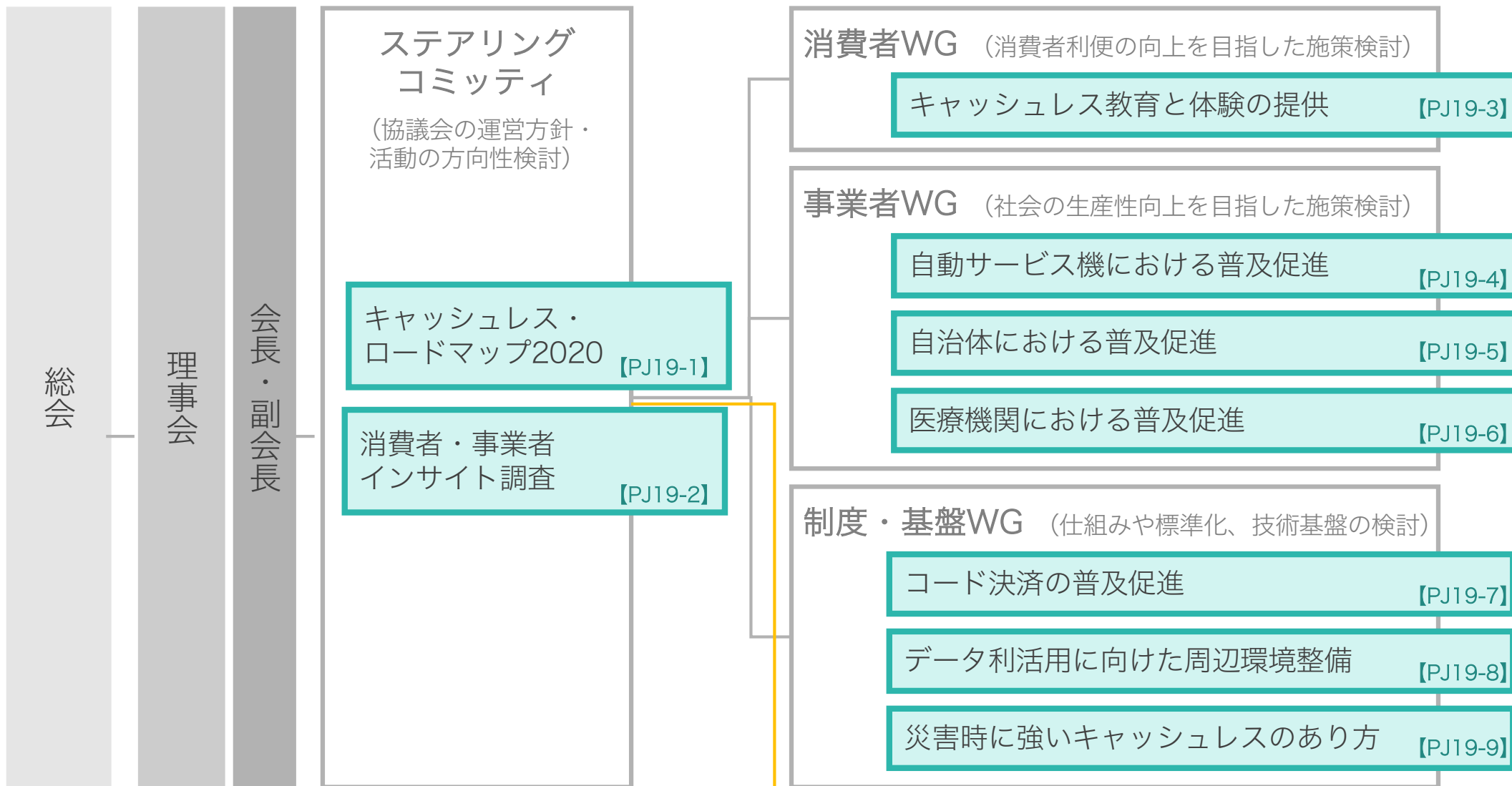
2019年4月1日～2020年3月31日

一般社団法人キャッシュレス推進協議会

2019年度 年間プロジェクト構成

(2019年4月～2020年3月)

FY2019プロジェクト



※「特定地域プロジェクト」は、自治体会員と調整の上、実施内容や時期等の詳細を検討し、期中にご案内の予定です。ご参加には、追加の費用を頂く場合がございます。予めご了承頂きますよう、お願い致します。

特定地域プロジェクト ※

プロジェクトの進め方

各プロジェクトでは、互選によりプロジェクトリーダーを1社選出する。
プロジェクトリーダーは、各プロジェクトにおける議論の進行、成果物の作成を担当する。

初回

- 事務局より、プロジェクトの目的等の説明を実施
- メンバーの中からプロジェクトリーダーを互選により選出

プロジェクト 検討期間

- **プロジェクトリーダーは、下記の役割を担当**
 - ✓ 議論の方向性の導出
 - ✓ 議論に必要な資料の作成
 - ✓ 必要なゲストスピーカーの選定
 - ✓ 当日のファシリテーション
 - ✓ (必要に応じて) 分科会の組成
- **事務局は、下記の役割を担当**
 - ✓ 日程調整、会場確保
 - ✓ ゲストスピーカーとの日程調整
 - ✓ 資料の印刷等、会場設営
 - ✓ 議事録の作成
- (必要に応じて) 業界連絡会、当局等への報告

最終回 年度末

- プロジェクトリーダーにより、報告書等成果物の取りまとめ
- (必要に応じて) 業界連絡会、当局等への報告

各プロジェクトに関し、参加制限はしない(参加は、各社2名まで)。参加会員数が多い場合、適宜分科会の組成により少人数での議論を行う。ただし、分科会での検討は、プロジェクトでの承認を得て効力を生じる。

【PJ19-1】 キャッシュレス・ロードマップ 2020

背景

- さらなるキャッシュレスの普及に向けては、協議会として同じ方向性を向く必要がある
- また、消費者や店舗等、キャッシュレスの普及に不安を抱く人々も少なくない
- さらに、キャッシュレスがゴールではなく、社会の効率化等の終局的なゴールも関係者全員で意識する必要がある

目的

- 現時点における、キャッシュレスに関連する先進的な取組等、キャッシュレスを利用する側が導入したいと思う事例を紹介
- 協議会として一定程度の方向性を示し、リソース配分の最適化やさらなるキャッシュレスの普及促進にはずみをつける
- 消費者や店舗等の一般の方にも見ていただける内容の充実

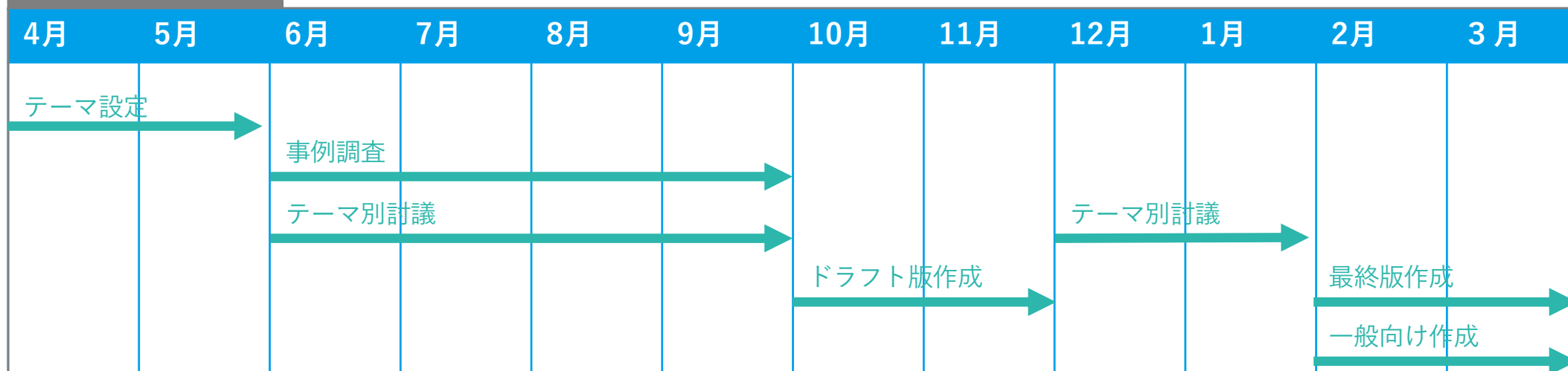
実施事項

- 2020のテーマ設定（2025の姿とその先）
- 地域のあるべき姿
- 先進的な事例の調査（他プロジェクトとも連携）
- 設定したテーマに関する集中討議

想定成果物

- キャッシュレス・ロードマップ 2020
- キャッシュレス・ロードマップ2020（一般向け）

想定スケジュール



【PJ19-2】 消費者・事業者インサイト調査

※ 本プロジェクトは、諸団体の同様の取組と連携を行います

背景

- 利用者（加盟店含む）側の視点に立った情報収集・議論・キャッシュレス促進施策の検討・進捗把握が不足
- 協議会の方針策定にあたって、想定ターゲットや想定ベネフィットについての議論に資するためのエビデンスが必要
- 利用者・生活者サイド情報の定期的把握によるキャッシュレス進捗状況とナウキャストの把握が必要

目的

- 生活者・利用者視点でキャッシュレス化停滞のボトルネックを捉え、今後の協議会を横断して同じ方向性で推進していくためのPDCAプロセス作り

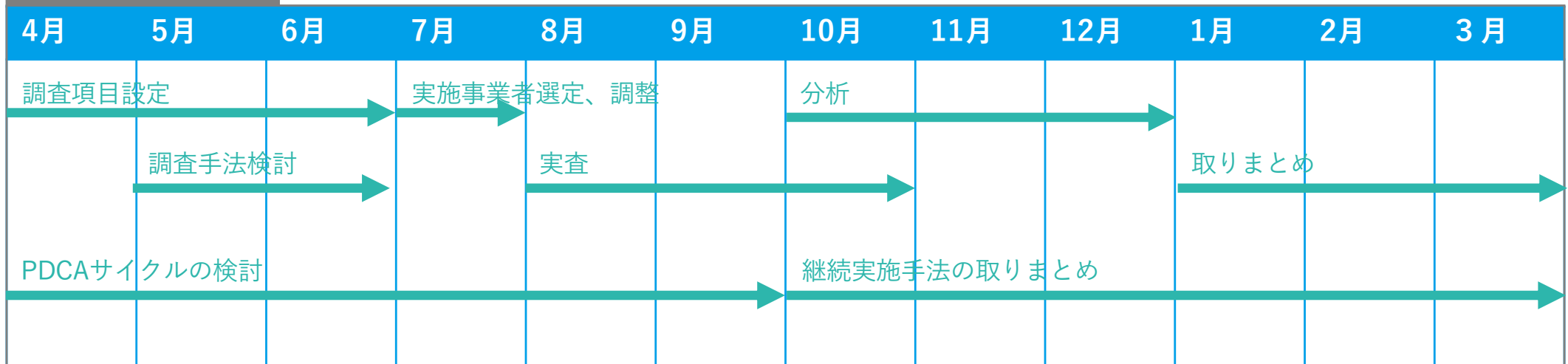
実施事項

- 実態把握) 決済手段の利用実態、利用者意識の把握
- 課題抽出) 現状のボトルネック（不満点や潜在ニーズ）の抽出
- 施策検討) ボトルネックをクリアするための施策検討

想定成果物

- 利用実態、施策検討に資する定量的データ（エビデンス）
- 今後、市場における浸透を監査するためのKPI（定期検証）

想定スケジュール



【PJ19-3】 キャッシュレス教育・体験の提供

背景

- 消費者の多くが、キャッシュレスに対する正しい知識を有していない
- キャッシュレスを体験せずに、拒否感を示す消費者も少なからず存在する
- 他方、キャッシュレスを行うにしても、何から実施すべきかから悩むケースも多い

目的

- キャッシュレスに対する正しい理解に加え、実際に体験することでその利便性を実際に経験し、定着させる
- キャッシュレスのメリットを、具体的な値として、把握する
- 実証事業における、実施手法の雛形（マニュアル）の策定

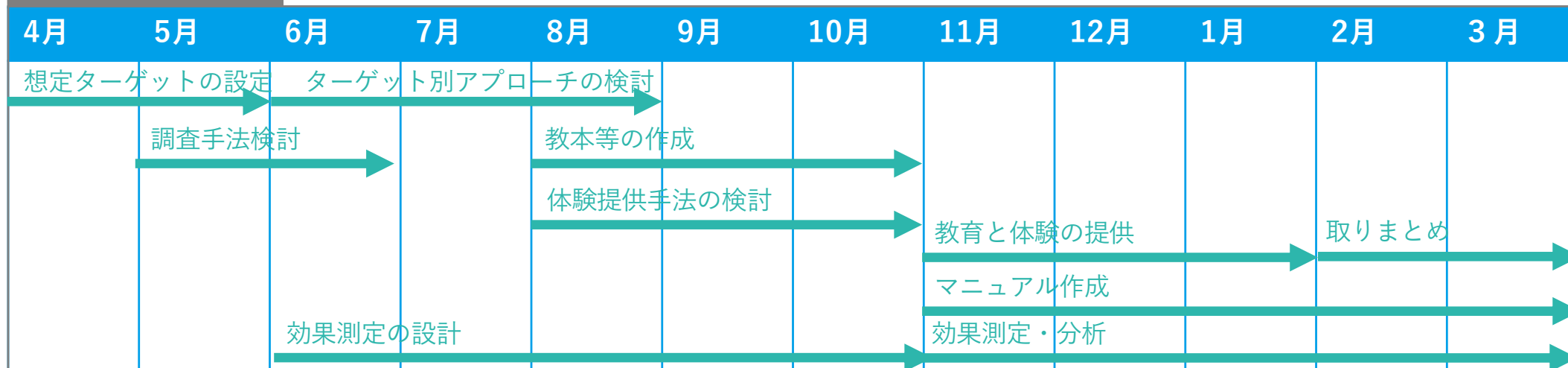
実施事項

- ターゲットとすべき対象の検討
- ターゲット別のアプローチの検討
- 教育及び体験のツールの検討、準備、作成
- キャッシュレス教育と体験の提供
- 効果測定の実施

想定成果物

- キャッシュレス教本
- キャッシュレスの導入による各種効果
- キャッシュレス教育と体験の提供に関するマニュアル

想定スケジュール



【PJ19-4】 自動サービス機における普及促進

背景

- 2018年度は、各自動サービス機における現状把握、課題抽出を行った
- 実際の普及に向けて、課題の克服策や促進策の検討が必要

目的

- 自動サービス機のキャッシュレス導入に伴う、メリット/デメリットの明確化
- キャッシュレス導入に伴う障壁をより具体化し、実行可能な対応策を検討する

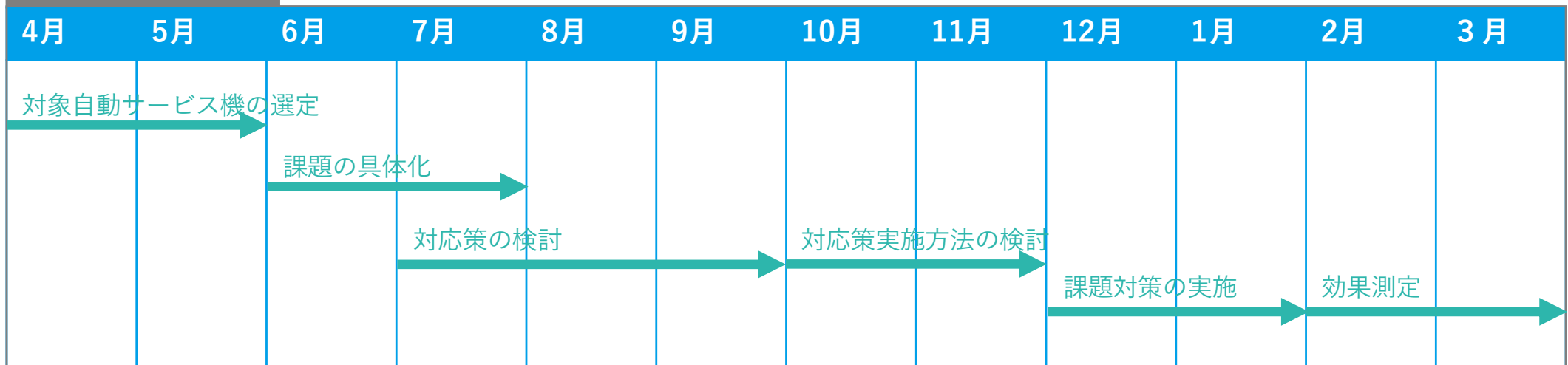
実施事項

- 対象とする自動サービス機（具体的に）の選定
- 各自動サービス機における課題の具体化
- 各課題に対する対応策の検討
- （一部の実施可能な）対応策の実施、効果測定

想定成果物

- 自動サービス機別課題、対応策一覧
- 対策実施硬効果

想定スケジュール



【PJ19-5】自治体における普及促進

背景

- 現在、自治体給付金（子供手当・介護手当、災害給付金等）を現金で支給しているが、申請手続きや支給にかかる事務運用は非常に手間がかかっている
- 税や公共施設の利用代金等の納付においても、現金のみを受け入れる自治体が多い

目的

- キャッシュレスを活用した円滑な給付・受給スキームの構築し、自治体の支給に関する運用の効率化と、受給者の利便性向上を図る
- 消費者の生活に密接な税公金の支払におけるキャッシュレスを普及させ、消費者意識の変化を促す

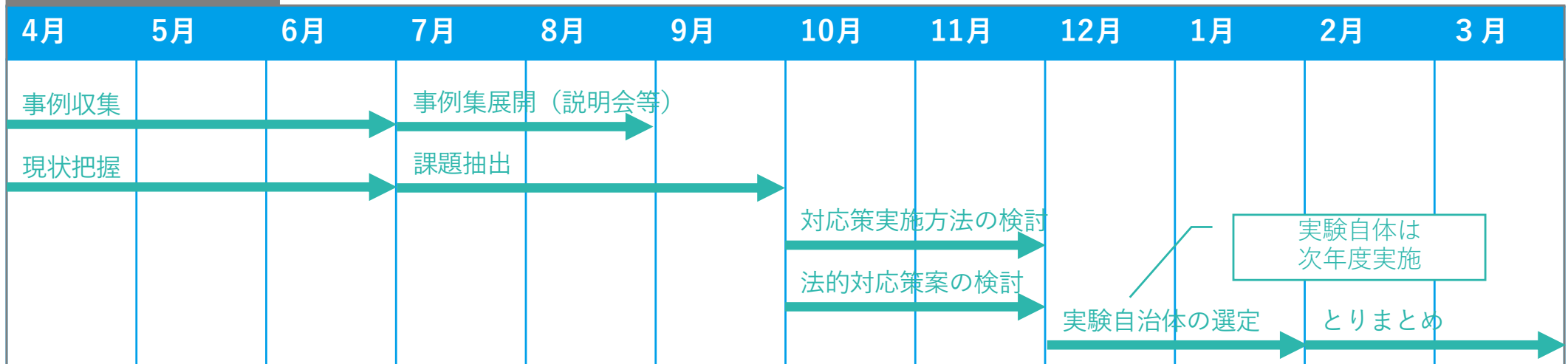
実施事項

- 先進的な事例の収集、周知
- 現状の自治体における歳入・歳出の把握
- 課題、問題点の洗い出し
- 法的規制に関する制約の確認
- 実現可能な課題解決策の協議

想定成果物

- 現状の自治体におけるキャッシュレスの状況
- 自治体におけるキャッシュレス取組の事例集
- 自治体向けキャッシュレス導入に向けた対応策の説明資料

想定スケジュール



【PJ19-6】 医療機関における普及促進

背景

- 診療所等においては、キャッシュレス未導入のケースが依然多い
- 病院等では、資金サイクルの課題も指摘されている
- インバウンド旅行者の（現金不保持による）未払問題も発生

目的

- 多くの医療機関（医科、歯科）においてキャッシュレスに対する理解の受入
- キャッシュレスを導入しやすい環境の整備

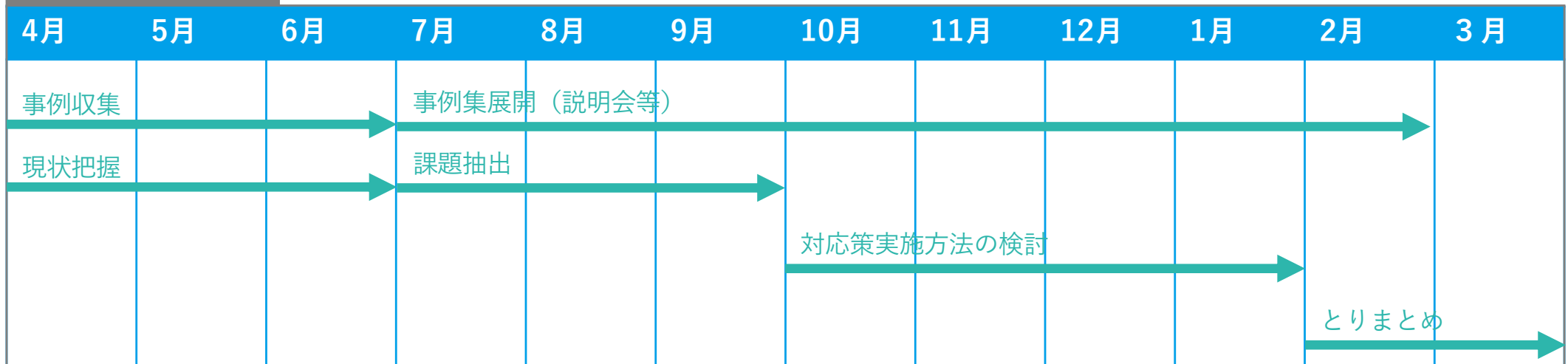
実施事項

- 医療機関における未導入要因の調査
- 医療機関に対するキャッシュレス決済手段の紹介
- 調剤薬局等への展開可能性検討
- 一括導入スキームのフィージビリティ・スタディ

想定成果物

- キャッシュレスに関する医療機関の現状
- 医療機関に対するセミナー等の実施
- 医療機関向け一括導入スキーム

想定スケジュール



【PJ19-7】 コード決済の普及促進

背景

- 2018年度は、各種ガイドラインを策定し、コード決済を導入しやすくするための環境整備を実施
- さらなる普及促進に向け、セキュリティも含めた残課題の洗い出し、対策が必要

目的

- コード決済のさらなる普及促進
- 安心・安全なコード決済の実現
- 協議会スキームの安定的な運用

実施事項

- 残課題の確認
- 不正事案等における事前対策、事後対策の検討
- 新たな決済手段へのスキーム適用可能性検討
- JPQR（仮称）スキームへの移行支援

想定成果物

- 各種ガイドライン（新規作成、改訂含む）
- 運用細則

想定スケジュール



【PJ19-8】 データ利活用に向けた周辺環境整備

背景

- キャッシュレス関連データの利活用が期待されている
- 一方で、各データは企業により異なる保有形態であり、集約的な利活用ができていない
- 統合的な購買・決済情報を蓄積・分析することで新たなサービスを創造することが期待できる

目的

- データ利活用に向けた業界を超えた討議
- 必要な周辺環境（マスタ、ガイドライン等）の検討、作成に向けた準備

実施事項

- テーマを設定し、それぞれに議論を行う（隔月に1度少人数で複数チームを設定し議論）
- 全体会に置いて議論の集約と方向性を導出
- 議論の中から導出された協調領域に関する整備の可能性検討

想定成果物

- テーマ別意見
- 協調領域に関する環境整備の可能性

想定スケジュール



【PJ19-9】 災害時に強いキャッシュレスのあり方

※ 本プロジェクトは、諸団体の同様の取組と連携を行います

背景

- 災害時には、停電等によりキャッシュレス決済手段が利用できない状況が発生
- 上記の結果、現金に対する信頼、キャッシュレスに対する不信が醸成
- 他方、キャッシュレスにはサーバー等で管理され、容易に滅しないものもあり、災害時における活用可能性も考えられる

目的

- 災害時においてもキャッシュレス決済手段を利用できるように、取りうべき代替手段や特別措置を制定
- 消費者と店舗に対し、災害時でも安心してキャッシュレスを利用できる旨を周知

実施事項

- 想定される災害パターンの抽出
- 各災害パターンにおける現状のキャッシュレスの弱点把握
- 上記弱点の克服方法、対応方法を検討

想定成果物

- キャッシュレス決済手段別の災害対応
- 利用者（消費者、店舗）向け災害時のキャッシュレス利用に関する周知文書

想定スケジュール



【参考】2018年度 年間プロジェクト構成

(2018年7月～2019年3月)

中長期的な方向性を示す「キャッシュレス・ビジョン」、短期的な検討を実施する「業務拡大検討」プロジェクトを「ステアリングコミッティ」として位置づける。また、「消費者利便の向上」「事業者効率の向上」「制度・基盤の整備」の3分野に分け、検討を実施。

